編集後記

京都にある古刹，岩船寺に次のような詩が掲げてありました．

花は黙って咲き
黙って散っていく
そうして再び枝に帰らない
けれども
その一時一処に
この世のすべてを託している
一輪の花の声であり
一枝の花の真である
永遠にほろびぬ生命の
よろこびが悔いなく
そこに輝いている

最近分かったのですが，これは，京都の南禅寺の管長をされた柴山全慶（1894–1974 年）という臨済宗の老師が作られた「花語らず」という詩だそうです．いまこの原稿を書いているのは 3 月終わりですが，ようやく春になり身近でもまさに一斉に花が咲き始めました．いずれの花も，構造は，それは複雑・精緻で，しかも澄んだ色彩で，どれも人間には絶対に真似のできないものです．我が家の猫の額ほどの庭に植えてあるシャクナゲは，桜に比べると長い期間にわたり，見事な花を咲かせます．この花は，つぼみを昨年の夏の終わりから作り始め，寒い冬にも耐え半年間も用意しています．こうしたつぼみの中での長期間の準備から，咲き出して散っていくまでの時間経過で考えると，本当に複雑なプロセスだと感心します．人間が造花を作るとすると，まず広げた形で花を作ってから，それを折り畳んでつぼみにするのが普通でしょう．しかし，木々は，折り畳んだ状態のままで，花の完成形を作ってしまう訳です．しかも材料は，水と栄養と空気だけです．

科学技術がこれほど発達し，遺伝子解析までできるようになり，さらにナノからピコオーダーのものづくりができるようになり，一方では人工知能が人間の能力を凌駕しようとしていますが，しかし，私たちが学ぶべき身近な自然の妙には，人間の想像を遥かに超えた，無限の神秘があると思います．大概のものは有限でしょうが，ここではあえて，「無限の」という言葉が当てはまるでしょう．いまある形や細胞などだけでなく，それを命として繋いでいく仕組みです．しかも，そんなに複雑な構造にしなくても生きていけるのに，またそんなに綺麗に咲かなくても子孫を残せるのに，また誰も見ていようと見ていまいと関係なく，花は一生懸命に咲いていることに，私たちは感銘し，見習うべき点は多いと感じます．

金井　浩
東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学
Japanese Journal of
Medical Ultrasonics
第 44 巻　第 3 号（通巻第 299 号）
Ⓒ The Japan Society of Ultrasonics in Medicine
――禁転載――
本体価格　2,000 円＋税（本誌購読料は会費に含まれます．）

平成 29 年 5 月 15 日発行
編集者　公益社団法人日本超音波医学会編集委員会　委員長　金井　浩
発行者　公益社団法人日本超音波医学会　理事長　工藤　正俊
〒 101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23-1
お茶の水センタービル 6 階
TEL 03-6380-3711
FAX 03-5297-3744
印刷所　大村印刷株式会社